

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q. 現在の相馬市の食品で放射能汚染度の高い食品にはどのようなものがあげられますか？

A. 相馬市では、平成25年4月から8月まで合計1,577件の食品を測定しました。

測定した食品のうち、基準値（100ベクレル/kg）を超えたものは、128件ありました。（注）出荷制限や摂取制限が既にかかっている食品や試料が規定量に満たない食品などの測定値は、参考値扱いとされます。基準値を超えた128件の測定値のうち109件が参考扱いであり、基準を超えた多くが、既に出荷制限や摂取制限のかかっている食品です。

基準値超えをしている食品の内訳は、大半がこしあぶら、しいたけなどの山菜・きのこ類です。現在の生活での内部被ばくは、ほとんどが汚染食品の摂取で起こります。空気や水からではありません。出荷制限の既にかかっている食品を未検査で摂取するのは避けること、さらに今後も特に汚染度が高くなりやすい食品は継続的に検査することが大切です。

（注）相馬市の出荷制限品目・・・柚子、キウイフルーツ、栗、くさそてつ（こごみ）、たけのこ、ぜんまい、ふきのとう（野生）、たらの芽（野生）、原木しいたけ（露地）、野生きのこ、こしあぶら、原木なめこ（露地）

品目	測定件数	基準値超件数
野菜	591	0
果実	257	0
山菜、キノコ類	473	118
魚	51	3
水	4	0
古米	8	0
新米	11	0
その他	182	7
計	1,577	128

Q. 原発事故当時と比較して、現在の市内の空間線量はどの程度下がっているのでしょうか？

A. 相馬市では、これまでに平成23年6月、平成24年4月、平成25年4月の3回にわたり、市内全体の線量を細かく測定するメッシュ調査を行ってきました。市内全域を500m四方に区切り、それぞれ地表面が土の場所と（アスファルトなどで）舗装された場所の2箇所、地上1mの高さの空間線量を測定しました。

平成23年度のメッシュ調査と比較すると空間線量は平均で、土の上で約53%、舗装された場所で約63%低減しています。物理的半減期（セシウム134は約2年、セシウム137は約30年）に加え、雨で流れるなどの自然環境の影響（ウェザリング）が考えられます。現在では放射性物質が地上に落ちているため、空気中に浮遊する放射性物質の影響を考える必要はありません。学校などの屋外活動においても、外部被ばくする線量はごく限られています。

平成25年度メッシュ調査 単位：uSv/h

地区	土	H23-H25	舗装	H23-H25
	平均	低減率	平均	低減率
中村	0.26	52.73%	0.18	56.10%
東部	0.19	54.76%	0.14	53.33%
大野	0.25	47.92%	0.17	55.26%
飯豊	0.18	53.85%	0.12	64.71%
八幡	0.36	50.00%	0.22	61.40%
山上	0.47	54.37%	0.29	60.81%
日立木	0.29	47.27%	0.2	56.52%
磯部	0.2	47.37%	0.14	50.00%
玉野	0.93	50.53%	0.6	64.71%
計	0.35	53.33%	0.22	63.33%

※メッシュ調査の結果と食品の測定値の詳細は相馬市ホームページを参照

出典および参考資料：相馬市ホームページ